

4 青少年育成

～青少年が健全に成長・発達しているまち

<A 基本計画の目標>

青少年の地域との連携を深めるため、青少年団体に対する活動を支援し、指導者の育成を図ります。あわせて、地域活動やボランティア活動への参加を支援します。

家庭、学校や地域と連携する中で青少年の健全な育成を図ります。

安心できる環境の中で子どもたちが遊びや生活を通して自主性をはぐくみ、社会性を身につけられるよう支援します。

家庭、学校、地域などでの青少年を取り巻くさまざまな問題に対応するために、相談指導体制の充実と非行防止に努めます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	トレンド
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	64.1 %	66.2 %	70.7 %	70.9 %	68.3 %	↘

<C 目標達成に向けた22年度の実績と自己評価>

自己評価

【こどもみらい部】

<p>※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)</p> <p>子ども会館・子どもの家の整備については、深沢小学校内で進めていた「ふかさわ子どもの家」の改修工事を完了し、平成23年4月当初に開設する運びとなりました。子どもの家の機能の移転に伴い廃止を予定していた梶原子ども会館については、利用者で組織された梶原子ども会館を考える会と有効利用について検討していくことになりました。</p> <p>暫定的な開設となっている「だいいち子どもの家」については、鎌倉体育館の敷地の一部と第一小学校の敷地の一部を活用して、本格的な子ども会館・子どもの家を建設することになり、計画を前倒して、地質調査など事前調査を実施しました。計画では、平成23年度は設計と高圧線の切り回しを行い、平成24年度に建設工事を行い、平成25年1月の完成を目指しています。</p> <p>なお、小学校近隣の施設の有効活用について陳情が提出されている、小坂小学校区の子どもの家の小学校周辺への移設は、具体的な計画が立案されるまでには至りませんでした。</p> <p>また、子ども会館の利用率については、親子で楽しめるリミックなど「きらきらサロン」を実施し、年間の利用者としては2%弱増加しましたが、15才未満の対象人口が昨年より増えたため、1日平均の利用者割合でみると前年と同一でした。</p>	○
<p>※この分野の目標達成のために取り組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)</p> <p>子ども・若者育成プランの策定については、平成22年度に4回の策定委員会を実施し検討を進め、プラン骨子案及び原案を策定するに至りました。策定の段階で、青少年の生の声を聞いたり、骨子案の段階で市民意見を募集するなどしてプランに反映させることができました。</p>	◎

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【こどもみらい部】

※ 前年度指摘事項なし

<E 22年度未達成事業の課題・問題点など>

【こどもみらい部】

子ども会館・子どもの家の整備については、小坂小学校区での子ども会館・子どもの家の小学校周辺への移設やサテライト的な施設の設置が求められており、計画の立案が急がれます。また、入所児童数が急増している山崎子ども会館・子どもの家の増床が急がれます。

子ども会館の利用率をアップさせるためには、午前中に乳幼児と保護者向けの講座を新たに開設するなどの対策が必要です。

子ども・若者育成プランを進行管理し実現を図る具体的な体制を示すまでには至りませんでした。

※未達成の理由<支障となった理由>

小坂小学校区については、適当な建設候補地や賃借する場合の物件が見い出せないためである。

<F 今後の展開(取組方針)>

【こどもみらい部】

子ども会館・子どもの家の整備については、小坂小学校区での子ども会館・子どもの家の小学校周辺への移設やサテライト的な施設の整備を含め、平成23年度の実施計画のローリングにおいて具体的な計画を提出していきます。山崎子どもの家の増築についても平成23年度の実施計画のローリングにおいて具体的な計画を提出していきます。おなり子どもの家や腰越子ども会館・子どもの家など老朽化している施設については、耐震調査の実施を視野に入れつつ、耐震化や建て替えなど方向性を定めていきます。小学校から距離のある西鎌倉子ども会館・子どもの家や岩瀬子ども会館・子どもの家については、父母からの要望を分析しつつ検討を進めていきます。また、子ども会館未設置学区の解消については、子ども会館の在り方や方向性に検討を加えつつ、全市的な視野をも踏まえて、計画を立案していきます。

平成23年度に子ども会館の利用率をアップさせるため、午前中に乳幼児と保護者向けの講座を新たに年間24講座開設する予定です。

平成23年4月に子ども・若者育成プランに対する市民意見を募集し、プランへ反映させるとともに、今後の進行管理等についても検討を進めていきます。プランに掲げた目標が達成できるよう実効性を高めるとともに、子ども・若者が抱える問題についての相談機能の充実や大人に対する啓発事業、青少年の居場所作り、青少年会館が青少年に魅力的になるための仕掛けなどプランが実現するための具体的方策についても検討を進めます。

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H19	H20	H21	H22	H22年度 目標値	H27年度 目標値
子ども会館の利用度(十)	子ども会館の1日平均の利用率	3.4 %	3.3 %	3.4 %	3.1 %	3.1 %	4 %	5 %
青少年育成活動参加率(十)	青少年育成活動に参加したことがある市民の割合	18.6 %	16.9 %	15.8 %	18.7 %	17.2 %	21 %	24 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	265,431千円	253,438千円	282,372千円					
	(国・県)	29,083千円	33,301千円	42,458千円					
	(負担金等)	39,693千円	44,534千円	46,925千円					
	(一般財源)	196,655千円	175,603千円	192,989千円					
	人員配置数	5.5人	5.8人	5.7人					
	人件費 (B)	50,935千円	56,670千円	53,304千円					
	総事業費(A+B)	316,366千円	310,108千円	335,676千円					
	対前年比		98.0%	108.2%					

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

・法律に基づき「子ども・若者育成プラン」を策定した。策定の過程では、委員会にとどまらず広く市民の意見も集めプランに反映した。プランを実行に移すに至り、進行管理の体制を整えつつある。



課題・提言

- ・子ども会館・子どもの家の整備経緯、子ども・若者育成プランの策定についての記述が中心で、学校・家庭・地域の連携や、相談指導体制の充実と非行防止に関する評価が行われていない。
- ・箱モノを用意するだけが事業ではなく、そこで何が行われるかの方向性を示すのも、市の役割ではないだろうか。子ども・若者育成プランも鎌倉らしさを如何に出すかが大きな課題と考える。
- ・「子ども・若者育成プラン」は、「きらきらプラン」、「教育プラン」と年代が重複してる。それぞれのプランの役割分担を明確にして、実行に移してほしい。
- ・子ども・若者を取り巻く環境は変化が激しく、策定後も随時見直しながら進めたい。
- ・家族や地域の大人の言動が子どもにも影響する。相手の立ち場に立って考えることができる人を育てたい。